

令和7年度 研究の概要

1. 研究全体構想

基本理念

子どもと教職員にとって、保護者にとっても、地域にとっても本校を
まなぶところ たのしいところ ちからをあわせるところ
 「学」校、「楽」校、「合」校 とする

学校教育目標

心ゆたかで かしく たくましく

目指す児童像

心ゆたかな子
 かしい子
 たくましい子

研究主題

子どもの探究心を育てる理科・生活科
 ～子どもが自ら気づき、問い、考える授業づくり～

研究仮説

児童の気づきの質や力を高めつつ、学びのスパイラルを進めていけば、児童の探究心を育てることができるだろう。

低学年部会	中学年部会	高学年部会	特別支援部会
めざす子どもの姿 ～探究心の高まっている姿～	めざす子どもの姿 ～探究心の高まっている姿～	めざす子どもの姿 ～探究心の高まっている姿～	めざす子どもの姿 ～探究心の高まっている姿～
チャレンジしながら 学び合う子	自ら問いをもち 主体的に解決しようとする子	見つめ直し 考えを深め合う子	チャレンジしながら 伝え合う子
手だて ～気づきを高め、めざす子どもの姿へ～	手だて ～気づきを高め、めざす子どもの姿へ～	手だて ～気づきを高め、めざす子どもの姿へ～	手だて ～気づきを高め、めざす子どもの姿へ～
① 気づきが生まれやすくなるために、具体物を使ったり、協働の場を設定したりする。	① 子供たちの心を揺さぶる事象提示をしたり、自然事象に十分触れさせたりして、主体的な追究につなげる。	① 体験活動や、観察活動を多く取り入れ、実生活と学習の関わりを深めることで、気づきの力を高める。	① 様々な活動にチャレンジする場を設け、達成感を味わえるようにする。
② 子どもの願いが実現する活動の場を設定する。	② 理科の見方・考え方を示し、気づきや考察に生かせるようにする。	② 問題醸成の段階を大切にし、児童の実態に合わせて矛盾に出会わせることで、見つめ直させる。	② 身の回りで起こる事象に興味関心を持たせ、気づきの視野を広げられるようにする。
③ 自己の気づきをより深めるために、ワークシートやグループ活動を通して、伝え合う場面を設定する。	③ イメージ図や写真、実物などを使った多様な表現方法で伝える場を設定し、伝え合う力につなげる。	③ 話し合いの場を工夫し、児童主体の話し合いができるように工夫する。	多くの言葉に触れて、考えを言葉にできるようにする。

2. 主題設定の理由

①学習指導要領から

学習指導要領解説総則編には、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指すことが示されている。その中で、「変化が激しく予測困難な時代の中でも通用する確かな学力を身に付けるためには、自分のよさや可能性を認識して個性を生かしつつ、多様な他者を価値のある存在として尊重し、協働して様々な課題を解決していくことが重要である。」とされている。

また、学習指導要領生活編の教科目標には「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていく（一部抜粋）」とある。この解説は以下の通りである。

（中略）

生活を豊かにしていくとは、生活科の学びを実生活に生かし、よりよい生活を創造していくことである。それは、実生活において、まだできないことやしたことがないことに自ら取り組み、自分でできることが増えたり活動の範囲が広がったりして自分自身が成長することでもある。ここでいう豊かとは、自分の成長とともに周囲との関わりやその多様性が増すことであり、一つ一つの関わりが深まっていくことである。そして、自分自身や身近な人々、社会及び自然が一層大切な存在になって、日々の生活が楽しく充実したり、夢や希望が膨らんだりすることである。

さらに、学習指導要領小学校理科編の理科の目標には「自然の事物・現象についての問題を科学的に解決する（一部抜粋）」とある。この解説は以下の通りである。

児童は、問題を科学的に解決することによって、一つの問題を解決するだけに留まらず、獲得した知識を適用して、「理科の見方・考え方」を働かせ、新たな問題を見だし、その問題の解決に向かおうとする。この営みこそが問い続けることであり、自ら自然の事物・現象についての考えを少しずつ科学的なものに変容させることにつながるのである。そのためには、問題を解決することに喜びを感じるとともに、「知らないことがあることに気付く」ことにも価値を見出すことができる児童を育成していくことが重要であると考ええる。

このように、学習が1つのサイクルで完結せず、生活科では実生活に生かされたり、理科では新たな問題に気付いたりすることで、また新たなサイクルが生まれていく。そうして育まれた探究心は、学習指導要領が目指している「生きる力」を育成することにつながると考え、主題を「子どもの探究心を育てる理科・生活科～子どもが自ら気付き、問い、考える授業づくり～」とし、研究に取り組んでいる。

②学校教育目標「心ゆたかで かしこく たくましく」から

本校では、学校教育目標のもと、「心ゆたかな子・かしこい子・たくましい子」を目指している。「かしこい子」は、「自ら学び、思考し、表現する力」の育成を通して実現されるものと考えている。理科・生活科において、探究心を育てることは、結果として、そのような力の育成につながるととらえ、研究に取り組んでいる。

①②に加え、本校では、理科・生活科の研究に長年取り組んでいる。そうした古き良き伝統を継承するとともに、ICT 機器の活用等、新たなチャレンジを通して、研究のさらなる発展に努めていく。

3. 研究仮説

児童の気づきの質や力を高めつつ、学びのスパイラルを進めていけば、
児童の探究心を育てることができるだろう

「気づきの質や力を高める」について (生活科) 気づきの質を高める

生活科の学習では、気づきの質を高めることが重視されている。「気づきの質が高まる」とは、無自覚だった気づきが自覚されたり、一人一人に生まれた個別の気づきが関連付けられたり、対象のみならず自分自身についての気づきが生まれたりすることをいう。

無自覚だった気づきが自覚される。(中山小の取り組みを参考に)

A は、ほかけ車を速く走らせたいという願いをもって、帆の形を変えて、何度も車を走らせる活動をしている。活動を通して、A はグループの中で一番速い車を作ることができた。ワークシートに工夫を書かせたが、A は「ない」と答えた。(無自覚の気づき) その様子を見た教師は、A に「友達の帆の形と比べると工夫が見つかるかもね」と、タブレット端末に集約された友達の帆の写真を見せた。すると A は「帆がぐにゃっとしているから速くなったと思う」と答えた。(無自覚だった気づきが自覚される)

一人一人に生まれた個別の気づきが関連付けられる(中山小の取り組みを参考に)

B は、最強の水鉄砲を作りたいという思いをもって、水鉄砲づくりをしている。活動の中で、マヨネーズの容器を体全体で押すことでパワーアップすることに気付いた。(個別の気づき) 工夫したことを報告しあう場を設定し、お互いに紹介した。その中で、C は水鉄砲の穴を大きくしたことで、水が勢いよく出てくることを発表した。B はそれを聞いて、自分の水鉄砲の穴を大きくした。振り返りには「C さんの工夫を聞いて、穴を大きくしたら、もっと最強の水鉄砲を作れた」と書いた。(一人一人に生まれた個別の気づきが関連付けられる)

対象のみならず自分自身についての気づきが生まれる(中山小の取り組みを参考に)

D は、雨の日に公園で見つけたカタツムリを飼うことにした。カタツムリは何を食べるのか知りたくなって、自然観察教室の時に来てくれる学芸員さんに聞いたところ、野菜を食べるということを教わった。キャベツとニンジンあげたところ、どちらもたくさん食べることに気付いた。(対象への気づき) 振り返りで D は、「カタツムリさんはキャベツもニンジンも食べていて、えらいと思いました。私も野菜をたくさん食べてみたいです」と書いた。(対象のみならず自分自身についての気づきが生まれる)

(理科) 気づきの力を高める

理科における「気づき」とは、理科の見方・考え方をはたらかせた気づきということである。

理科の見方・考え方の例

見 方		考 え 方	
量的	数や値に注目する	比較	違いを考える
関係的	数の関係に注目する	関係付け	結び付きを考える
質的	性質や特徴に注目する	条件制御	統一して考える
実体的	つくり方に注目する	因果関係	原因と結果を考える
共通性	同じ点に注目する	多面的思考	様々な方向から考える
多様性	違う点に注目する		
時間的	時間の変化に注目する		
空間的	方位や距離、高さに注目する		

理科の見方・考え方ははたらかせた気づき（中山小の取り組みを参考に）

6年生のAは集気びんにふたをして、燃えていたろうそくが消えることを観察した。なぜ消えたか問われ、Aは質的な見方を働かせて、空気の性質が変わったからではないかと考えた。二酸化炭素という言葉聞いたことがあったので、空気が二酸化炭素になったからではと発表した。クラスの数名もAと同じように考えたが、教師から、「二酸化炭素を直接見ることができたか」と問われた。すると、Aは二酸化炭素を間接的に確認する方法がないか考え始めた。交流の中で気体に色が付けられたら、という発言が出てきたときに、教師から石灰水とその性質を紹介された。すると、「ものが燃えた後のびんの中には二酸化炭素があるのだろうか」という新たな問いが生まれた。この実験の後、Aは石灰水の性質を紹介された時と実験の時の石灰水の濁り具合が違うことに気付く。Aは量的な見方を働かせて、二酸化炭素の割合が関係しているのではないかと考え始める。すると、「燃えた後のびんの中の二酸化炭素はどれくらいあるのだろうか」という、量的な見方を働かせた新たな問いが生まれ、気体検知管を使って実験することになった。このように、二酸化炭素を石灰水、気体検知管という方法でとらえ、多面的に考えることができた。

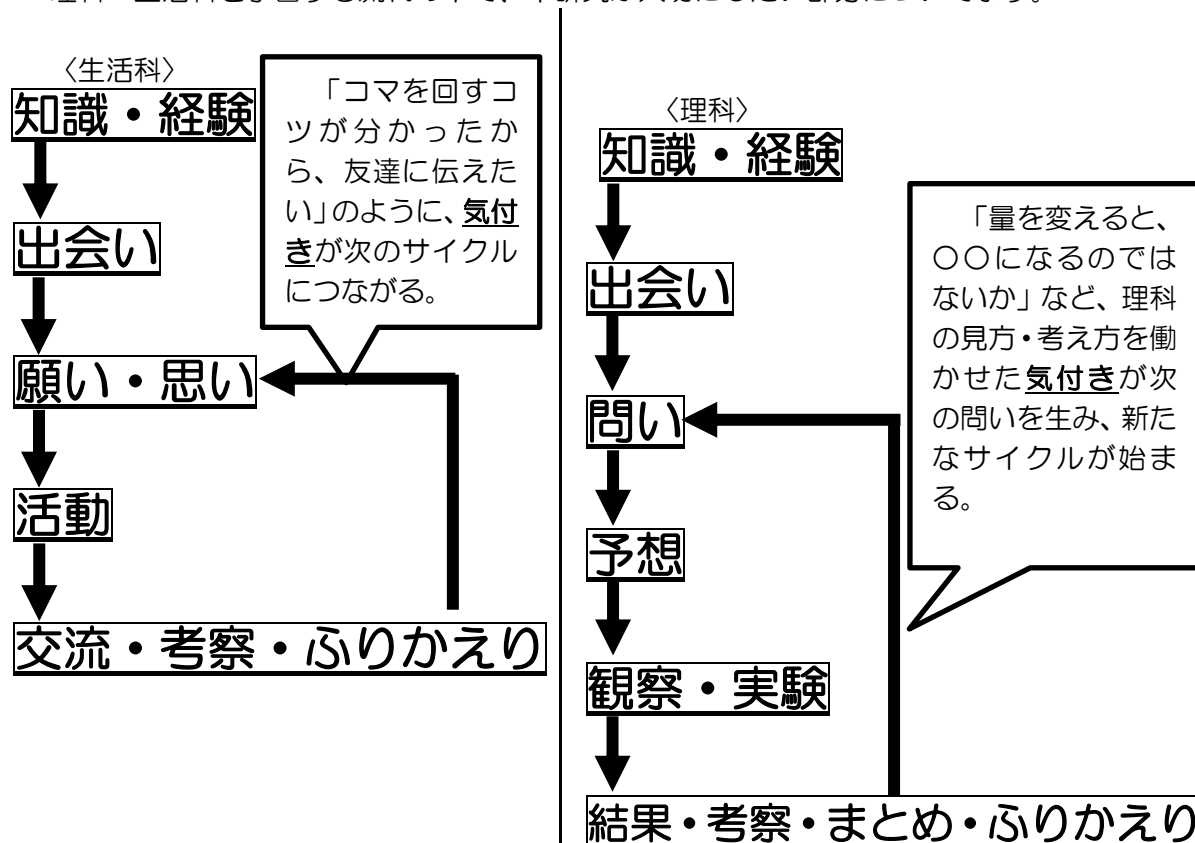
1つの問題解決だけにとどまらず、学びが連続するように教師が導くことが大切である。

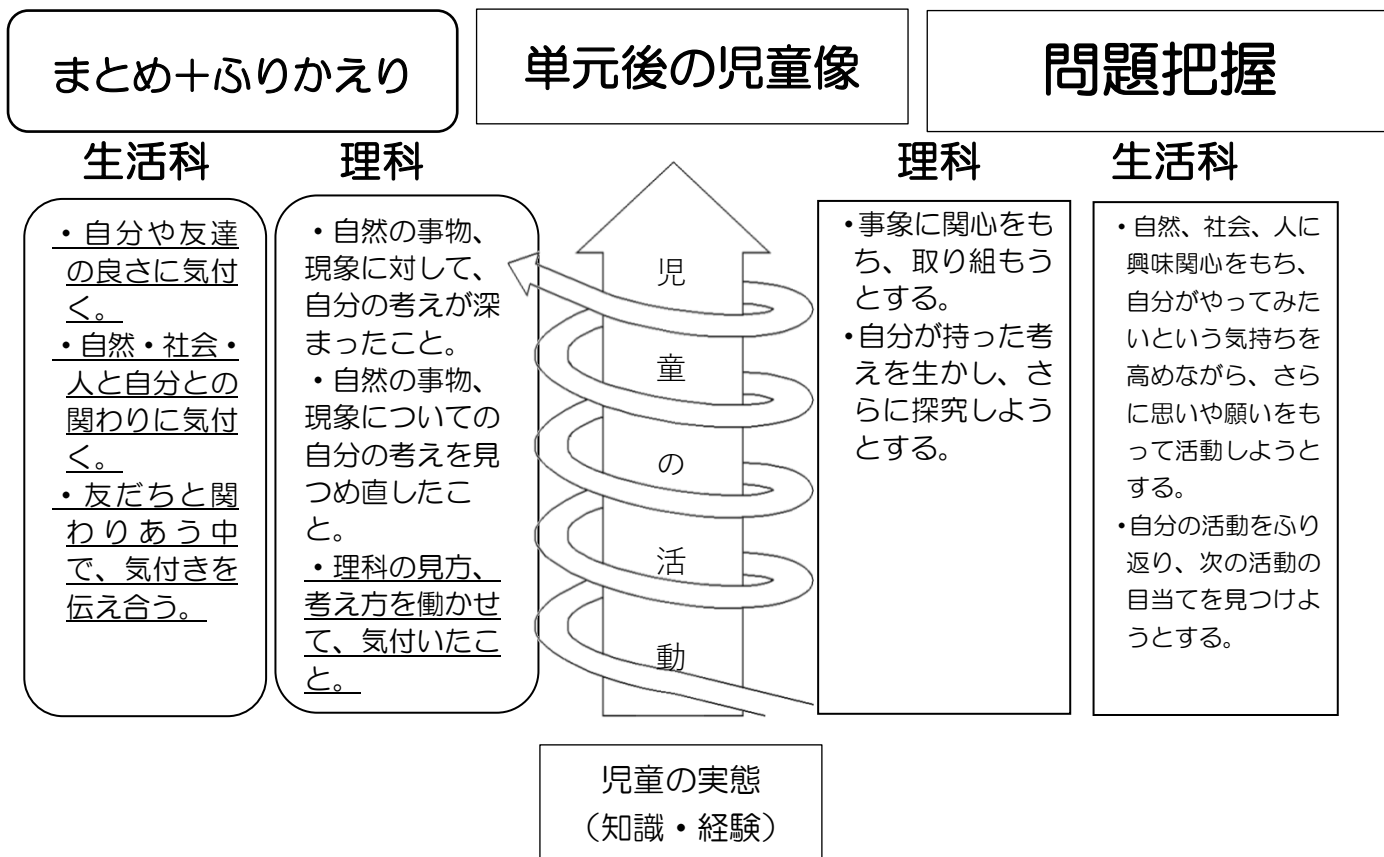
どちらの教科についても、気づきの質や力を高めるためには、教師が意図して、対象となるものや、事物・現象に出会わせることが大切である。さらに、「どのようなことに着目して気付いたのか」など、気づきに対して、教師が伝えることで、次の学習で気づきが生かされていくと考える。

4. 学びのスパイラル

研究主題にある「スパイラル」とは、学びのスパイラルのことである。学びのスパイラルとは、児童の実態（スタート）から単元後の児童像（ゴール）まで、児童がどのように探究心を高め、思考を深めていくかを表したものである。

理科・生活科を学習する流れの中で、本研究が大切にしたい部分について示す。





5. 研究への取り組み

研究を進めていくうえで以下の点を共通して取り組む。

1. 各部会で、探究心の高まっている児童の姿として「めざす子どもの姿」(ゴール)を設定し、気付きの力を高める手立て・めざす子どもの姿に向かう手立てを示す。

本研究も、学びのスパイラル同様、めざすゴールに向かって取り組んでいきたい。探究心の高まりは、発達段階に応じて異なると考え、各部会での設定とする。また、学びのスパイラルを進める気付きの力を高める手立てと、それぞれのめざす子どもの姿に向かうための手立てを示すことで、年間を通して取り組めるようにしていきたい。

2. 学びのスパイラルの継続。

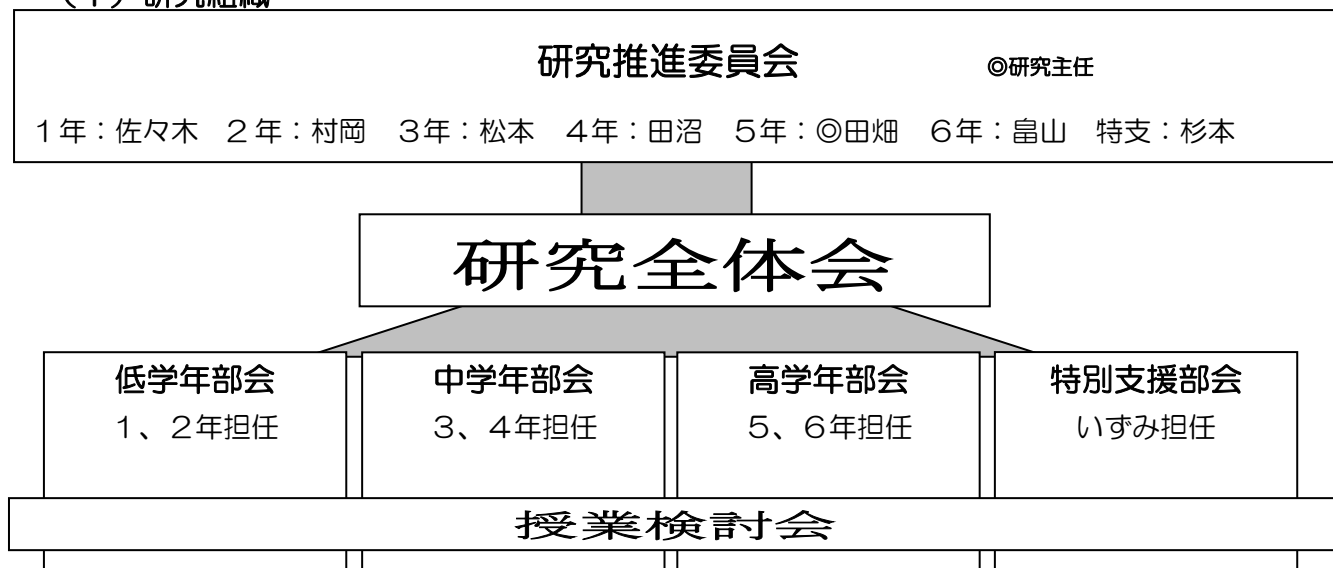
昨年までの研究を継続し、子どもの思考に沿った授業展開を考えていく。

3. 理科センター校として、指導研以外での授業の記録をもとに資料（研究の足跡）を作成し、市内外の教員と共有する。

本校は理科センター校として、今日まで市内外の教員に向けて授業を公開している。指導研の授業以外の単元の授業記録をもとにした資料である「研究の足跡」を作成することは、本校教員の個々のスキルアップにつながり、さらに市内外の教員の指導力向上につながると考えている。

6. 研究の進め方

(1) 研究組織



(2) 授業研・協議会の持ち方

	① 校内部会研	②理科・生活科学学習指導研
実施日	10月17日、22日、29日	11月28日
授業者	各学年1名ずつ	各学年1名ずつ
指導案検討	各部会	各部会・部会講師
参観者	<ul style="list-style-type: none"> ・部会 ・校内教職員 ・部会講師 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体講師 ・部会講師 ・部会
連絡調整	・研究推進	・研究推進
協議会	1. 授業者から 2. グループ討議 ※授業者が事前に示した、協議したい事項について ※拡大指導案に意見を書いた付箋を貼るワークショップ形式 赤色の付箋→ 成果 ・授業の良かった点 ・授業のねらいが達成できていたと思う点 青色の付箋→ 課題 ・授業の課題や疑問点 ・授業をより良くするための提案 3. 討議内容発表 (4. 講師から) 5. 質疑応答	

・付箋の記入例（5年 「電磁石の性質」）

赤

電磁石が一人1つずつ用意してあることで、自主的に実験を進めることができていた。

良かった点、児童の様子など。
 （記名の必要はありません。）

青

電流を流したコイルのどの部分が磁石の力を受けているのか、はっきりと示させると、話し合いの場面で思考が深まるのではないか。

こういうやり方はどうだろう、という提案など。別のやり方の紹介なども含めて。

○授業研当日は表を参考にして各部会で役割を決める。

研究授業の役割分担

カメラ	
講師案内	

協議会の役割分担

司会	
講師案内	
記録	
お茶	
会場設営(机、指導案の拡大など)	

8. 研究年間計画

研究日は基本的に水曜日に行う。研究推進委員会は必要に応じて設ける。

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	備考
4月	3日(水) 第1回研究推進委員会 研究内容・ 年間計画確認・ 実態把握の確認	10日(水) 第1回研究全体会 研究内容 研究の方向性確 認	16日(水) 18日までに各 学年で校内研 日程と単元を 決める 単元入れ替え 等考慮する	23日(水)	30日(水)	
5月	7日(水) めざす子どもの姿 手だてを決める	14日(水)	21日(水)	28日(水) めざす子どもの姿 手だて決定		
6月	4日(水)	11日(水) 研究主任授業提案	16日(月) 第2回研究全 体会	25日(水)		6月中 理科協力員の先生方に 単元を周知し、実践資料 や教材を持参していた だくようをお願いする。
7月	9日(水) 教材研究 夏の指導案検討に 向けた資料作成	16日(水) 研究推進委員会 夏の検討会につ いて	23日(水)	30日(水)		
8月	指導案の作成		21日(木) 夏の指導案検 討会予定			
9月	3日(水) 指導案の作成	10日(水)	17日(水)	24日(水)		
10月	1日(水)	8日(水)	17日(金) 部会校内研①	22日(水) 部会校内研②	29日(水) 部会校内研③	
11月	5日(水) 研究推進 指導案の確認	12日(水) 指導案の修正な ど	19日(水) 指導案送付	28日(金) 理科・生活科 学習指導研修会		
12月	3日(水) 研究推進 紀要の提案	10日(水)	17日(水) 紀要作成 いずみ研究授 業指導案検討	24日(水)		
1月	7日(水) 紀要作成	14日(水)	21日(水)	28日(水)		
2月	4日(水) 紀要確認	10日(火) 紀要訂正	18日(水) 紀要完成 (データ)	25日(水) 紀要印刷		
3月	4日(水)	11日(水) 紀要配付 (各学校)	18日(水)			3月中 第3回研究全 体会を開き、 振り返りをす る。

※校内研は部会研とする。